



令和元年 12月 26日
大阪管区気象台
近畿地方整備局

令和元年度「防災とボランティア週間」講演会 の開催について

近畿地方整備局と大阪管区気象台等は、「防災とボランティア週間」における取り組みとして、講演会を開催します。

本講演会は、幅広い方々に防災についての知識の向上等を図るため下記のとおり開催します。

●テーマ：「激甚化する自然災害に備えて」

～身近に迫る産業事故の危険と防災気象情報～

- ・講演「自然災害を起因とする産業事故と地域の備え」

名古屋大学 減災連携研究センター 強靱化共創部門

特任准教授 荒木 裕子

- ・講演「防災気象情報を活用して大雨による災害から身を守る」

大阪管区気象台 気象防災部 気象防災情報調整官 弘田 実

●日時：令和2年1月20日（月）13時30分～16時00分

●場所：国民會館 武藤記念ホール

大阪府中央区大手前2-1-2 国民會館住友生命ビル12階

●定員 300名（参加無料、要事前申込）

申込は下記 URL からお願いします。

http://www.kyokai-kinki.or.jp/business/expert/bousai_week.html

※大阪管区気象台ホームページにもチラシを掲載しています。

<https://www.jma-net.go.jp/osaka/topics/R02/20200120bousaikouenkai.pdf>

※この講演会の案内は近畿地方整備局から在阪報道機関へ同時に配布されています。

[問合せ先] 気象防災部 防災調査課 島田、谷口 電話 06-6949-6323
FAX 06-6944-2121

令和元年度「防災とボランティア週間」講演会 講演内容

○題 目:「自然災害を起因とする産業事故と地域の備え」

○講演者:名古屋大学 減災連携研究センター強靱化共創部門 特任准教授 荒木 裕子氏

○概 要:

阪神・淡路大震災の液化石油ガス漏れ事故や東日本大震災のコンビナート火災など、地震や津波、水害などの自然災害を起因として産業事故が起きることがあります。

平成 30 年 7 月豪雨では浸水したアルミニウム工場が爆発事故を起こし、周辺住民が避難を行いました。その行動の基盤には地域における平時からの災害に対する取り組みと、行政機関との連携がありました。その一方で水害が迫る中での情報共有や避難行動の困難性も見られました。毎年のように水害が起こる中、都市化するなかでの自然災害について一緒に考えたいと思います。

○題 目:「防災気象情報を活用して大雨による災害から身を守る」

○講演者:気象庁 大阪管区气象台 気象防災部 気象防災情報調整官 弘田 実 氏

○概 要:

西日本各地に大きな災害をもたらした平成 30 年 7 月豪雨は、まだ私たちの記憶に新しいところです。そして令和元年も日本各地を襲った大雨や台風により大きな災害が発生しました。

私たちは身のまわりにある災害の危険を事前に確認し、防災気象情報を活用して、早め早めに、避難など安全を図るために行動することが重要です。

今年から開始された警戒レベルや防災気象情報等の発表タイミング、大雨・洪水警報の危険度分布の利活用について、映像も交えながら説明します。